石櫻新聞

発行所　石櫻會
印刷所　岩手高校學生部
出版　石櫻會新聞委員會
印刷所　盛岡市六日町
富士屋印刷所

石櫻會の運營と實際
各委員長に聽く (2)

時はすぎゆく春よりぞ
又短かきはなかるらん
——藤　村——

今春生徒會の役員が決定し、活躍を開始してから早や足かけ三ケ月、この間、生徒心得は配布され、應援團も設置されたもののまたたく間に月日は流れ去つて了つた。表の題の下に各委員長に中間報告を兼ねてその抱負を聞いて見た。

組織を變更して
佐々木久志

昨年の華續成された石櫻會の下に、文化、体育等從來の校友から五名の委員を石櫻會の学習會活動と連絡、學力の増進を目的として五つの常任委員會の一つに學習委員會が設立された。委員長になつた時は實の所何をやつて良いものやら分らなかつた。それでもとにかく最初の壁にぶつかつたのは、學習委員會は他の委員會と違つて、仕事が学習の事であるから活動の範圍を各學年別に分けねばならぬと云う事であつた。

次に各學年別に分けると、規約通りの各ホームルームより一人づゝ撰ばれた委員は2—3人位のもので学習全般にわたるすべての事をやらねばならぬ様になるので、實際の所、何も出来ない狀態である。それで組織の點を如何に變えるかについて顧問の先生方に色々お伺いした結果現在各ホームルームにある三名を組織を各学年別に編成し、先日委員長になつた時は實の所何をやつて良いものやら分らなかつが出来る程度の形が整つたので、これから積極的活動に入る具体的な計畫を立案中である。

職員圖書を解放
野崎　生一

今年の春圖書館設立準備委員會として發足してから三ケ月、との間圖書の整理、修繕及び良書の撰擇に重點を置いた、又圖書室を完備するため職員室の横の部屋に移し職員室の半分を閲覧室にし五月上旬より図書の貸出を開始した。

圖書利用者は上級生に非常に多く下級生殊に高中一年生の利用者が少いようである。本の以來購入方法は五月に圖書世論調査した結果を參考にして購入した。

パーセンテージとしては全集物四十五%參考書類四十五%文藝及び雑類十%の割合である。主なる本の題名は次の通り。

科学事典、自然科学辞典、英文法辞典、英文法詳説、新英和大辞典、東洋文藝辞典、西洋文藝辞典、概觀世界史、少年百科、菊と刀、郷土等である。

圖書購入の選擇は諸先生の御意見等を參考にして圖書委員會内の圖書購入選擇委員が良書の選擇に當つている。これからの方針としては夏休みが終つたら職員圖書を諸君に解放して閲覧カード室をつくり一ケ月に一回は圖書世論調査をして全生徒の意見が直接反映するよう努力する。

又学習委員會と協力して土曜日にも開館して勉学の向上を計りたいと思つている。

充實した圖書館を設立するためには諸君の協力が必要である。

（圖書委員會）

模擬試驗

△廿五年度第一回の模擬試驗が七月十五日土曜日を利用して行なわれた。參加員數は總計八十名であつた。尚これに先立つて十四日中学校の文部省制定、アチーブ、メン、テストが一齊に行なわれた。

尚矢張り三年の受驗者數が壓倒的に多く、目立つのは高一の社會科が一般社會に集中して居ることである。

說論
社会について

我々学生がいわゆる「青白き必然なのであるが、どの世代にインテリ」として社會人より敬遠され、また学生としても社會人を軽視していることは、学生のエゴイズム的な社會觀であり、内容のせまさではないだろうか。学園に住んでいるというのは社會に對應する基礎を作るための手段なのである。

我々は学生としても自眼視されるのは学生である封建的な学生諸君もあるまたは他の学生でも自己中心の君云う事であつた。

何事にも動じない自己中心の君云う君子がそれは学生などが三つ巴になつて居る。岩高、中の秩序を守るために、岩高中と云う社會を觀念して問題に行くはずがないので名、それぞれ吾が子の成績について擔任教師より注意を受け、夏期休暇に於ける父兄の生活指導の相談をして散會した。

学園にもつとも必要なのは秩序である職後派的な思想をみだりに發揮しているものもあれば封建的な教育を素直に受け入れて盲目的に追従するものもある。

学園に住んでいるというのは社會人を軽視していることは、学生のエゴイズム的な社會觀であり、内容のせまさではないだろうか。学園に住んでいるというのは社會に對應する基礎を作るための單に生存すると云うだけで生活手段なのである。時代の移り變りと共に世相が變轉することはある。

我々学生がいわゆる「青白き インテリ」として社會人より敬遠され、また学生としても社會人を軽視していることは、学生のエゴイズム的な社會觀であり、内容のせまさではないだろうか。学園に住んでいるというのは社會に對應する基礎を作るための單に生存すると云うだけで生活手段なのである。時代の移り變りと共に世相が變轉することはある。

必然なのであるが、どの世代に云う君子がそれは学生などが三つ巴になつて居る。岩高、中の秩序を守るために、岩高中と云う社會を觀念して問題に行くはずがないので名、それぞれ吾が子の成績について擔任教師より注意を受け、夏期休暇に於ける父兄の生活指導の相談をして散會した。

夏休みを前にして

私はここに注意として書くが、ただ注意が書いてあるなんとしと思わはないでそれをよく行いの上に表わして欲しいと思う。漠然とそれを感ずるのみではいらく書いても無駄だ、自分自身のことをよく考えて学生らしい行動を常にとることを希望する。

ともすれば夏休みは自由放從に流れやい、四月か今迄事故はなかつたが夏休みの中に我儘な生活によつて惡の温床を作ると思う。それが十月十一月頃になると芽生えて來るのではなかろうか、夏休みの生活が如何に大切であるかを切實に感じてもらいたい注意事項としては、思想方面として讀書は常に選擇し讀む上に於いては批判的態度を常に堅持し、校外に於ける變な關係に注意しなければならない、風紀方面としては煙草酒は嚴禁惡友なんかに進められた場合は決然として未成年であるからのみませんと斷固たる態度をとつて欲しいそうすると惡友も怖れをなし二度と進めないと思う

夜遅く迄遊ばないこと、マージャン屋、ダンスホールには絶對に入つてはいけない。そして服裝には常に端正にして欲しい、與太者のような格好をして居つてはいけない一目で岩中、岩高の生徒であることが常に分る様にして欲しい。また女生徒との交際は学生らしく美しく交際し、女としての立場を常に尊重することを忘れてはならない。

注意することは以上の樣なことであるが四十日間もの休みであるから計畫的に規則正しい生活をし、勉强の足りないものはその方面に重點を置き自分のものとして後悔のない夏を休本當に自分に有意義であつたと思われる樣な生活をして欲しい。

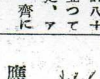
正しい生活をするのも自分を大切にするか、しないかによつて定つて來る、自分を大切にして生活することによつて尊い体驗が生れて來ると思う。

（日野岳港）

PTAの集り

七月十二日、前期中間考査終了後初のPTAの集りが開かれた。參集した父兄は約三百五十名、それぞれ吾が子の成績について聞滿に行くはずがないので、岩高、中の秩序を守るために、岩高中と云う社會を觀念して問題に行くはずがないので名、それぞれ吾が子の成績について擔任教師より注意を受け、夏期休暇に於ける父兄の生活指導の相談をして散會した。

應援團に対して



讀者の聲

全校生の承認を得て發足した應援團は今年こそ從來通り弊害を改めて立派なものになるだろうと大きな期待を持つて居たが、どうやら裏切られたらしい。暴壓的言辭、人を人と思はぬ三年生のその惡態を改めよ。

冷きちんと殘り、靴を擧げ卒先して朝子を振るならまだしも我々の後につつ立つて眺うでもなれ大せた期待を抱いてその實施しだらしない格好のまゝに惡罵を待つて居たが足掛三ケ月を經て了つたこの今日とんと音沙汰がなくなつを放つことのみに專念して居る三年生のその惡態を改めよ。

さもなくば父二年前の應援團廢止の徹をふむのみ——。

（高二　阿呆鳥）

放送施設よ何処え？

我々は常に学校の行う事に疑問を抱く。と云うのは昨年から足洗場の設置とか、その他各種の工事が發表されてもいつの間に立消えとなつているかである。

一昨年放送施設の起工が報じら

技量伯仲す
校内討論會開く

綵論部では七月十八日、十九日の兩日に恒つて校内クラス對抗は經済的或は其の他種々の事情討論會を行なう出場チームは一B を除いた高校各クラスが參加B 一チーム三名、朝日式討論方法で行う、論題は

一自殺の是非
一教師の腕力について
一学問とスポーツは兩立するか
一世界平和の可否
一元號變止の是非

尚討論内容では教師の腕力行使について否が殆んどで唯三Bの川村、宮手等が〝是〟の立場をとり自殺の問題についても同樣是の立場をとつて注目されて居る、組合せ及びメンバーは次の通り

決勝
B 三A小林、大和
A 三B宮手、川村
C 三C姉帶、工藤、近藤
A 二B滝、沼、二C八重樫、佐々木
B 二A山館、岩淵、本吉、二B滝、沼、二C八重樫、佐々木

西野、一A田村、箱崎、梅澤、

二十五年度
進學狀況

今春三月、百二十四名の先輩を学窓から送り出したが其の進学狀態及び就職狀態がこの程判明した。それで今後諸君の將來について何かの參考となることを期待するものである。

まず進学したものは全部で七十

学習院大学	東北大学
慶應大学	日本大学
中央大学	早稲田大学

教師住所錄
—夏休み中でも　矢張り教師は　なつかしいもの—

佐々木哲郎	市内仁王小路
山中　順三	市内新築地
小笠原哲二	市内上田小路
小林　博	〃新築地
高橋　與平	〃上田
佐藤巻六郎	〃新築地
千田　助治	〃上田小路
行雄	岩手郡拂石仲町
阿部　嚴	市内盛田川原九〇
鈴木　健郎	田村よし方
〃	内加賀野三三
吉田　長作	紫波郡煙山村赤林
本間　壽雄	一八ノ一五
足澤　至	市内館坂五六
日野　岳治	〃新築地
紫内　興宗	〃三ツ割一〇七
遠藤　貫中	〃木伏五三
	介加賀野久保田九二ノ六
鎌石　喜六	市内元仁王
綾田　昇三	東京都港區芝三田
角掛　忠夫	合町一ノ四一
和田　邦親	市内加賀野春木場
小笠原　晋	三四
佐藤　正吉	岩手郡太田村中太田
柳舘　敏	市内關口一〇七
鈴木　誠	〃元仁王
小野寺之郎	〃青物町七二
岡田資科内	紫波郡志和村字片寄
細川　典子	
鵜谷堅次郎	
松見　得明	市内仙北組町一一
平野　哲郎	市内盛田川原九〇
赤石久太郎	〃上田舘向一一四
菊池　忠六	

（敬稱略宛所は不明）

白煙

二十一日行なわれる驛傳選野球大會に第一日目に優勝候補の隆一の盛岡高校と對戰する本校は野球部も明治大学野球部の主將他二名を招いて連日猛練習を續けて實力が向上し來て居るしコーチャーの言に依れば七割迄勝算ありと云うから楽晴らしい。おまけに應援を行おうと連日練習に勤んで居るのも心强い。然し、傳統を誇る盛岡高チーム故絶對樂觀は禁物、油斷大敵と云うこともあるのだから……

（野崎記）

体育後援会について

既報、岩手高中校体育後援會について次の事が判明した。會の資金は總て寄附その他に依つてまかなわれる。（既報、資金獲得の爲の晋利事業は行なはない事になつたそうです）本校職員の關係役員は戸嶋先生、平野、その他。

音樂部夏期公演

音樂部では七日二十三日演劇部と共に盛岡少年刑務所に招かれて所内に於て音樂部公演をする。種目は合唱である。

夏期特別講習会

四十三日の長期に恒る二十五年度夏期休暇中に上級学校進学希望者の爲に特別講習會が開かれる、日程は種目未定

印刷業務
一般事務用品
文房具
紙製品卸
新陽社
佐藤盛
盛岡市十三日町七一
TEL 二三三六番

市内高校討論會

石櫻會出版委員會 市内高校辯論部連盟 共催

石櫻新聞社に市内高校辯論部連盟共催の下に去る七月二日、高松校講堂に於て「市内高校討論會」が催された。（既報）當日は前夜來の雨の爲聽衆は剌合少なかつたが、各校辯士の論舌は火を吐き亂戰を續けた。各校の出場メンバー次の通り

上田校舎、長岡洋介、藤井正義、若林利治、白梅校舎、小野宣子、高橋シマ子、山屋寛子、岩手高校宮手タケシ、川村洋一、工藤都夫、高松高校、館孫滅、八重樫義雄、菊池勇、杜陵高校、淺沼健次郎、館下健三、中島五郎、橘高校、千葉三郎、本城藤舘澤浩二

右の七校のトーナメント式組合せに依つて論戰は展開された。開會に先つて連盟の委員長千葉三郎君の挨拶があり、次いで岩手地方勞働委員會の佐藤彰氏は「諸君は各自異つた思想やイデオローギーを持つて居る事と思う。各自、己の信念を卒直に話し合い、その中から何物かを得るように努める事、それこそ社會人としての義務である。」と述べた

第一回戰 柏――橘

討論に入るや柏の舘君は、人間が生れた時は何も、知らない白紙の狀態である。後日罪を犯すのは社會が惡いからである」と述べこれに對し橘高校の千葉君は「犯罪を犯す直前迄人間は社會に依つて刺激されるが犯罪をなぜ犯すか否かは各人の決斷、意志に依つて決定される」と反駁、結局審査員の無記名投票投票に依り

（柏高校 白票 ／ 橘〃 一票）となる

第二回戰 岩手――高松

「學生の犯罪は個人の罪か社会の罪か」

人間と社會の意志

その罪は個人にありと主張する高松高の宮崎君立つて「人間の自由は良心を以て善惡を判斷する所にある。人間は輩の樣に惡いから惡なのではない」と問い詰れば宮崎君立つて「人間の惡は社會の罪と呼ばれるは出來ない、人間はその本能に於て闘爭的動物である」

―藤井君―

此の論戰に於ける高松高の宮崎君の青年らしい純情な理智的論うとも、將來の歴史は平和が可能である」

―館君―

審査結果

上田校舎	六票	
柏	ナシ	
白票	二票	

▽第五回戰白梅校――高松

『自殺の是否について』

代表山屋君が乙女らしい可憐な自殺肯定論を述べれば高松の山崎君は冷徹な否定説を展開、結局 白梅 五票 高松 二票 白票 〃

白梅校「自殺の績出は社會の責任であり、自殺者は生の苦痛から逃れんとして死え勇進するのである。だから自殺はいけない。又、あとに殘された家族の手を考えるべきである」

―宮崎君―

▽決勝戰上田――白校

『學生の政治活動の是非』

第三回戰 白梅――杜陵

『學生の政治運動の是否』

△第三回戰白梅――杜陵

『學生は無關係であれ』

高松高「学生は眞理を探究するのが主目的であつて、政治の如右の題の許に盛に討論を交わしき現實處理するものとは無關係たるべきである」―淺沼君―白梅校舎が一票の差で勝利を獲得した。

「政治が亂れ、又戰爭が始まりそうな時にこそ、学生は学問の生、連盟顧問の双方から賞狀及自主性を保つために、實際の政治に參與すべきである」

―高橋君―

審査結果

（白梅校 杜陵校 ／ 七票 一票）

以上三試合を終つて會場は一時休憩に入つた。審査員諸氏に對しては、岩手女子高校、市立女子高校、上盛高生徒の皆さんが卒製になるチキンライスを以てその勞をねぎらい、午後の部は十二時五十分に始められた

▽第四回戰上田校舎――柏

『世界平和は可能か不可能か』

史的考察

上田校舎「世界の歴史は戰爭の成されるものであつてその學生連續である、戰爭はさけることの犯罪は社會の罪と呼ばれるは出來ない、人間はその本能に於て闘爭的動物である」

―藤井君―

決論を下す。

柏校「過去の歴史はどうであろうとも、將來の歴史は平和が可能である」

―館君―

審査結果

上田校舎	六票	
柏	ナシ	
白票	二票	

▽第五回戰白梅校――高松

『自殺の是否について』

代表山屋君が乙女らしい可憐な自殺肯定論を述べれば高松の山崎君は冷徹な否定説を展開、結局 白梅 五票 高松 二票 白票 〃

白梅校「自殺の績出は社會の責任であり、自殺者は生の苦痛から逃れんとして死え勇進するのである。だから自殺はいけない。又、あとに殘された家族の手を考えるべきである」

―宮崎君―

▽決勝戰上田――白校

『學生の政治活動の是非』

孤舟歌選

かなしびの大きなみだをたゝへたる
まなざしにふれいふことのなし

ふたゝたびあはむ日あらぬうつし世の
ひとりの人をうしなひしはも

ふるさとの家の戸口に立ちつくし
追はるゝごとく出でにける人

人間のあたりまへなることのほか
むづかしいことはで死にたり

行く水のながれをひとり流めつゝ
何をか一つさとりたまひき

註　岩手の產んだ歌人小田島孤舟氏は先日迄本校で教育に當られて居たが身体衰弱の爲退職された

明日甲子園 市營球場 大會予選

來る二十一日より六日間に恒圓子、清見、小武方でマウンドつて朝日新聞社、高校野球連盟を守り三疊手佐々木のあとには共催の全國高校野球岩手縣豫選川村で埋め遊撃阿部のあとには甲子園に駒を進めた盛岡高や本が開催されるが參加校は昨年、と云うように清新發潤としてチ校を始め二十七校が盛岡球場。ームワークも充分でありホーネ管理部球場の二ケ所で熟戰が展プレートを死守するハリキリ屋開される事になつた主將會議は小笠原や强打者、圓子、川村等十一日に開かれ本校は一回戰に於て宿敵盛岡高と對戰することになつたが如何に盛岡强しと云ど昨年秋季高体連大會に對戰し日頃練えたる一矢を報ずる時もこの時であろう。諸君、行け！ヘゲームは終止押していて安打市營球場で對戰されると思うメンバーは次の通り

位置	名（昌）	氏名
捕	村部見子	原方
一	岡清圓小笠澤	武田村
二	中投一捕左右二三	小吉川
打順	1 2 3 4 5 6 7 8 9	

尚選手の士氣を高める爲には應援が無くてはならない應援團が昨延長戰に於て破れたとは云

應援歌歌詞募集

新發足した應援團は、又應援歌も新鮮味に富んだ應援歌を必然的に必要とします、そこで左の樣式で應援歌の歌詞募集を行い、應援に對する諸子の理解を深めようと思う

應募規程

一、資格は卒業生、在校生のいずれかなること。
一、原稿用紙を用いる事
一、清新闘潮なものである事
一、歌詞の長さは限定せぬ
一、締切、九月十日
一、宛先、出版委員會宛
一、賞品、一等二等各一名に相當の賞品を贈る

採用された歌詞は生内先生の歸省をまつて作曲を依頼する豫定である。ふるつて應募されるのを待つて居る。

石櫻會
應援團
出版委員會

世論調査

會誌を発行せよ

會誌石櫻の存廢が問題になつて來たので出版委員會與論調査部では次の樣式で校内の世論を調査した（用紙配布枚數は四百枚である。少しの事でも裁判に附されるがそれも極く自然である。これは久慈に居る本校卒業の後援團体の招待に依るものである。

△八月二十一日～一週間
營宿温泉に合宿、温泉グランドにて練習を積む

同時日に日大ラグビー部のチームが來盛同じく營宿温泉にて合宿練習を行うので練習試合を行なう予定である。

一、希望するもの　三一二名
白紙　八名
二、値段については八十圓、六十圓、四十圓、の三ツを記したが六十圓が最大で二八六名四十圓が他全部
三、兩方の發行希望者が大多數となつた
四、この期日については各人各樣、体体は十一月頃に落着いて居た

應援も活潑

若人の血湧き肉踊る高校野球縣豫選、選手の連日の猛練習と併行して、應援團もその日に備えて今や練習も白熱化し、幹部の指揮の許一齊に帽子を振り、拍手を倦起す見事さは全く青春に絶した壯觀であり當日の熱狂振りが想像される。

寺本慧達師來校

去る七月十二日、教育者として名高い千代田女高の校長寺本慧達師が來校、當日折からのPTAの會に參集して居た父兄約三百名及び高校生約四百名を前に、アメリカの學生々活の雰囲氣〃と題して講演を行つた。師の軽妙且鋭敏な諷刺に會衆は思はず緊張した顔をほころばせた

講演后、お互に明日の日本の爲に頑張りませうとの一言を殘して去つて行かれた。

講演内容次の通り

アメリカの學校の雰囲氣

アメリカの學生は定められた規則を自然にそれを守つて居る

◆應募資格　在校生、卒業生守ることについて全然不自然さがなく習慣になつて了つて居る

◆種目　新聞の漫畫を除き同等

◆締切　新聞はなし、會誌は八月末日

◆宛先　出版委員會宛
石櫻出版委員會
新聞部、會誌部

その点、日本の學生は學校の規則と自分の行ひとは反對の方向に向つて居る樣が氣がする。アメリカ人は紳士的態度を常に持して居る人間尊重をたてまえとした民主主義に生きて居る。又その反面、社會保障制度が確立されて居る。少しの事でも裁判に附されるがそれも極く自然であつて何等の苦痛感も抱いて居ないのである

特に漫畫は採用の分には薄謝を呈す

會誌石櫻

◆應募資格　在校生、卒業生
◆種目　新聞の漫畫を除き同等
◆締切　新聞はなし、會誌は八月末日
◆宛先　出版委員會宛
石櫻出版委員會
新聞部、會誌部

ラクビー部

春の大會に惨敗を喫したラクビー部は奮然起つて練習を開始血みどろのトレーニングを連日行つて居るが、夏期休暇中のスケジュールを次の如く發表した

△八月一日～十日間
久慈に合宿、附近の高校と練習試合を行う。
△八月十八～一週間
盛岡に合宿、温泉グランド

訂正

一面一段佐々木久志とあるのは「佐々木」の誤りです

討論會終る

十八、十九日の兩日開かれた校内討論會の結果は次の通りである

團体	一位	一年A組
	二位	二年C組
個人賞	一位	川村洋一
	二位	八重樫昌宏

教師個人消息

出版委員會の主任顧問の角掛先生は、本校代表として八月四日から五日間東大（駒帝大）で行われる「學校新聞指導者講習會」に出席するため十五日上京した。なお住所は東京都港區芝三田合町一ノ四一六大増寺方

編輯後記

◈第三號が刷り上つて三日目の今日、第四號の編集を完了した。勿論速製であるから、誤はあらうがどうかお察しの程を……。（二〇大矢晋夫）

◈今度は文藝欄を休載しました原稿がないからではありませんがスペースがありませんので――（二〇佐々木剛）

◈今度は二年一年の方々にハフトになつて働いていただきました。

◈隨分富士屋印刷所の方々にお世話になりましたこの新聞が休み前に無事についたのもそのお蔭です（三B川村洋一）

原稿募集

石櫻新聞

◈應募資格　在校生、PTA諸氏卒業生

◆種　目　論文、評論、詩、短歌、俳句、小説、隨筆、藝術評、漫畫、時事風刺漫畫等

校外短信

花に寄せて

盛岡白梅校舎では毎朝廊下の五箇所に美しい花がさしてある。花瓶は去年の卒業生が校内美化のために寄贈してくれたもの。ありその意志をついで二〇T始末。ヒルメシを二時間目に食

〃俺達も〃

花巻高校校舎にもカツポー室とぎらいなのがいて「そんならおれたちもカツポウやるんべ……とは……。（花巻一高校）

短信

（自梅校舎）

れている。

花巻高校校舎にもカツポー室とぎらいなのがいて「そんならおれたちもカツポウやるんべ……とは……。（花巻一高校）

組グループによつて今なお續らつてしまつた暴れん坊連中、居